

実務経験のある教員等による授業科目

シラバス

音楽技術学科

音響エンジニア専攻

授業科目		授業時数
ミキシング		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
松川 貴陽 音響現場の経験を生かした、繊細かつスピード感あるミキシングを、コミュニケーションを含めたかたちで教授		
前期		
到達目標		
ミキシングコンソールの基本構造や信号の流れを理解し、操作方法を身に付ける。		
評価方法		
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	実習室レクチャー 実習室及び、機材の使用方を説明。また授業受講していく上でのマナーや心構えを説明する。	
2	ステレオとモノラルの概念 意外に奥深い内容としてステレオとモノラルの違いを検聴しながら理解していく。	
3	① ミキシングコンソールの構造 ミキサー全体の信号の流れを理解、チャンネルフェーダーとマスターフェーダーの違いと感覚を理解してもらう。	
4	② ミキシングコンソールの構造 インプットモジュールの特徴(HA, EQ, PAN)を理解してインプットパッチ切替方法等を実習していく。	
5	③ ミキシングコンソールの構造 シーンメモリー/データ保存の方法と注意、メータリング/ピークメーターの特徴とその理解を学ぶ。	
6	ProToolsとの接続① ミキサーのルーティングを理解してもらい信号の流れや回路構成の考え方を学んでいく。	
7	ProToolsとの接続② マイクレベルとラインレベルの違いについて講義。定格レベルの考え方とレベルオーバー、S/N比の考え方を実際に体感していく。	
8	ここまでの復習 マイクを接続、ProToolsへ適正レベルで録音できるようにする調整方法を理解してもらう。更にシーンメモリーして状態保存出来るように実習する。	
9	① EQと周波数について 可聴周波数帯を理解していく。様々な周波数での音の変化を検聴、これらの記憶が必要となってくる。	
10	② EQと周波数について 音源に対して、どの様に作用するか周波数ごとに試していく作業を行う。その変化を体感しながら、これからのミキシングに生かせるように記憶していきたい。	
11	AUXセンドバス AUXセンドバスと内部エフェクトとのルーティングを理解してもらって実習を行う。	
12	AUXセンドバス AUXセンドバスのパッチ切り替えとアウトプットパッチの理解をしてもらう。	
13	バスの使用 バスのルーティングを理解して様々なバス設定をできるようにする	
14	ミキシング基礎 トラックデータを使用して音楽ミキシングにおける音量バランスのとり方、EQの使用、定位等、細かい部分での調整方法を体感して学んでいく。	
15	●実技試験 前期(1~14)学習内容から一部抜粋的に実技試験を行う。	
16	●前期まとめ 前期に習得した全てにおいて確認を行い、不十分な部分を補いながら後期への導入とする。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・ 実習	
授業概要	
デジタル音響調整卓の取扱いとミキシングの手順と手法を学習、アナログとの対比も含め、自分の耳で判断する為の音楽的知識も含めたものになっています。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:CD900ST(ヘッドホン)	
後期	
到達目標	
エフェクターなどを使用し、あらゆる状況に対応したミキシングをする。	
評価方法	
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	AUXとINSERT AUXやINSERTの回路を理解をして、その仕組みと必要性を学ぶ。回路構成の組み合わせを色々試すことで、その効果の違いを学習する。
2	エフェクターについて① マルチエフェクターのセット方法を学ぶ。リバーブのパラメーターを理解して効果的な使用法を練習していく。
3	エフェクターについて② ディレイのパラメーターを学び、効果的な使用法を聴きながら練習していく。
4	エフェクターについて③ 位相系エフェクトのパラメーターを学び、効果的な使用法を練習していく。
5	エフェクターについて④ ノイズゲートのパラメーターを学び、効果的な使用法を練習していく。
6	エフェクターについて⑤ コンプレッサー/リミッターのパラメーターを学び、効果的な使用法を練習していく。
7	課題曲A-1 ※3週で提出 今まで習ったものを実際の楽曲ミキシングで試して行く。8チャンネル程度の練習曲をミキシング、レベルバランス、ステレオバランス、EQを意識しながら進める。
8	課題曲A-2 前回の続きとして、エフェクトを選び効果的に使用できるように試して行く。
9	課題曲A-3 今回の作品を自分なりにミキシング完成まで進め、授業終わりで提出する。
10	課題曲A-4 ※作品評価 提出作品をクラス全員でブラインドテスト、意見・得点する。自身作品のミキシングした作品評価を確認する。
11	課題曲B-1 ※3週で提出 ふたつ目の課題として16チャンネル程度の練習曲をミキシングする。前回同様、レベルバランス、ステレオバランス、EQを意識しながら進めて行く。
12	課題曲B-2 前回の続きとして、エフェクトを選び効果的に使用できるようにしていく。
13	課題曲B-3 今回の作品を自分なりにミキシング完成まで進め、授業終わりで提出する。
14	課題曲B-4 ※作品評価 提出作品をクラス全員でブラインドテスト、意見・得点する。自身作品のミキシングした作品評価を確認する。
15	●1年間のまとめ ミキシング方法に関する意見交換を行った後、自身への指摘を改善できる方法を模索、実行してみる。必要に応じて再評価を受ける。

授業科目		授業時数
レコーディング実習		124
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
山本 篤士 数多くのミュージシャンとの現場作業経験を生かし、その場の現場対応技術も含めたかたちでレコーディングを指導。		
前期		
到達目標		
スタジオのシステム、基本的な信号の流れを理解し、簡単なボーカルレコーディングができるようになる。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	レコーディングスタジオ概要と心構え レコーディングエンジニアに必要とされるスタジオでのマナーや心構えを知り、これから学んでいく作業への意識を高めると共にレコーディングスタジオの概要を理解していく。	
2	スタジオ内の機材について 実作業で必要となる最低限の機材(ミキシングコンソールやPro Tools、アウトボードなど)を知り、電源の入れ方や使用方法などを学習していく。	
3	前週の機材に加え、スタジオ内のあるマイク、スタンドの種類なども学び、それぞれの役割や特徴などを身につけていく。	
4	スタジオ内の信号の流れ マスターレコーダーを使用し、スタジオ内での音の鳴らし方を習得。その流れをシステム系統図を用いて理解していく。	
5	前週に引き続き、マスターレコーダーを使用しながら信号の流れ、注意点などを学んでいく。	
6	Pro Toolsセッティング Pro Toolsのセッションの作り方を学び、レコーディングで使用するツールの説明などを行っていく。合わせてタイム取りも行っていく。	
7		
8	スコアリーディング① 録音される楽曲の譜面・歌詞を読むことができるのは重要なポイントとなるため、その練習を行う。	
9	マイクセッティングと回線チェック・録音 少ない本数でのマイクセッティング(たとえばヴォーカル録音用セッティング)を学び、実際に録音していく。その際に信号の流れやレコーディング作業の流れ、注意点などを学んでいく。	
10	前週に引き続き、少ない本数でのマイクセッティング(たとえばヴォーカル録音用セッティング)を学び、実際に録音していく。その際に信号の流れやレコーディング作業の流れ、注意点などを学んでいく。	
11	セッティングや作業の流れなど学習しながら録音していく。特にマルチトラックレコーダーを中心にさらに知識を身に付けていく。	
12	RECシミュレーション&TD 学生からVOCALISTを選び、今まで学んだ内容をもとにレコーディングスタジオの作業を確認しながら進めていく。	
13		
14	Pro Tools追加セミナー 現場でのPro Tools作業(アシスタントエンジニア)が、そのスタジオの仕事のリズムを作り出すものになることを理解してもらう。	
15	前期試験	
16	前期のまとめ 授業での疑問点等のFollowを行いながら後期予定等の打ち合わせも兼ねる。	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技(実習)		
授業概要		
録音スタジオでの所作から始まり、周辺機器の取扱いや操作法、その効果を学びます。音楽的な内容が数多く現れる現場として、その作業の進め方を学んでいきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:		
後期		
到達目標		
りやオーバーダビングといった、さまざまな録音方法を理解し、基本的なバンドレコーディングができるようになる。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	スコアリーディング② 録音される楽曲の譜面・歌詞を読むことができるのは重要なポイントとなるため、その練習を行う。	
2	演奏ブース コントロールルームの内容以外に演奏ブースの仕様を説明。ボーカル、ピアノ、ドラム、ベース、ギター等の録音イメージをもってもらう。	
3	ボーカルRecの流れ① ボーカル録音をセッティング。実際にボーカリストに入ってもいい、回線チェック〜リハーサル〜録音の流れを理解していく。	
4	ボーカルRecの流れ② ボーカル録音を行うための仕込み、ボーカリスト誘導、リハーサル・録音・Vocal edit・コミュニケーションまでの流れを学ぶ。	
5	ボーカルRecの流れ③ ボーカル録音の技として良い部分を組み合わせるVocal editについて学ぶ。歌詞カードや実際の譜面を見るという工程も伴うようにしていく。	
6	ボーカル録音(カラオケ録音) 在校生のボーカル2名を録音する。しっかりした録音として仕上げることを目的とする。	
7	弾き語り録音&TD 弾き語り(Piano or Guitar)のプリプロ音源を制作する。ライブ感ある音場に仕上げて、ご本人に郵送する。	
8	TD	
9	Pro Tools追加セミナー 現場でのPro Tools使用は、スピードと確実性が求められる。数を熟して現場経験が必要なものとして、授業でできる最大限を追求していく。	
10	楽器(ドラム) 実際にドラマーにスタジオに来てもらってセッティング、マイク立込み、サウンドチェックまでの作業を行う。	
11	楽器(ギター・ベース) 実際にギタリスト、ベーシストに来てもらってセッティング、マイク立込み、サウンドチェックまでの作業を行う。	
12	バンド録音&TD 粗めの3Pバンドで発取りライブ録音を行う。レコーディングスタジオで目一杯鳴らすドラム・ギターを録り込んでみましょう。	
13	先生のTDその音で、サウンドの変化とバランスをみんなで体感していきます。	
14	後期試験	
15	1年間のまとめ 録音業務としてアーティストと対峙する仕事なので、コミュニケーションの力を付けていくこと。この内容に関しては、音楽やエンターテインメント等にはっきり興味を持ち続け勉強が必要。	